

生活やADLなどの患者状況に応じた対応

## 服薬時の問題点から処方内容の見直しを行った事例

### 【入院時処方内容】

薬剤名（一般名）	規格	1回量 用法
1 アムロジピン錠	5mg	1錠 朝食後
2 クロピドグレル硫酸塩錠	75mg	1錠 朝食後
3 ランソプラゾール口腔内崩壊錠	15mg	1錠 夕食後
4 酪酸菌製剤錠		1錠 毎食後
5 トコフェロールニコチン酸エステルカプセル	100mg	2カプセル 毎食後
6 ウルソデオキシコール酸錠	100mg	1錠 毎食後
7 クエン酸第一鉄錠	50mg	1錠 朝夕食後
8 葉酸錠	5mg	1錠 夕食後
9 ベラプロストナトリウム錠	20μg	2錠 毎食後
10 リネゾリド錠	600mg	1錠 朝夕食後

内服薬：10種類	薬剤管理：病棟管理
服薬回数：3回	服薬支援：あり（一包化）

### 【退院時処方内容】

薬剤名（一般名）	規格	1回量 用法
1 アムロジピン錠	5mg	1錠 朝食後
2 クロピドグレル硫酸塩錠	75mg	1錠 朝食後
3 ランソプラゾール口腔内崩壊錠	15mg	1錠 朝食後
4 酪酸菌製剤錠		1錠 毎食後
5 クエン酸第一鉄錠	50mg	1錠 朝夕食後
6 ベラプロストナトリウム錠	20μg	2錠 毎食後

内服薬：6種類	薬剤管理：病棟管理
服薬回数：3回	服薬支援：あり（一包化）

【患者情報】90歳代 女性 入院患者（入院期間：57日）

診療科：外科

主疾患	両下肢閉塞性動脈硬化症			
病歴	髄膜炎[5回繰り返す](34歳)、強皮症(83歳)、閉塞性動脈硬化症(91歳)			
生活状況・入院契機など患者背景	もともと長女と同居していたが、老健施設へ入所。聴覚障害（両耳難聴）、短期記憶障害、移動・排泄・更衣は介助。食事は一部見守り。義歯を入れている。食事摂取状況：規則正しい。排便状況：1日1回（P-WCを使用） 足の指が黒色になっているため、他院を受診。右足趾1～5すべて黒色壊死。その後、高圧酸素療法目的のため当院へ転院。熱発、CRP高値のため、抗生剤の点滴を開始。入院して約1か月後、右足からMRSA検出。白血球の増多は認められなかったが（WBC：4480/μL）、創部症状とCRP高値のため、内服リネゾリド錠が開始となった。			
認知症	なし	介護認定	あり	要介護4
薬剤有害事象	なし（ ）	副作用歴	なし（ ）	
アドヒアランス	良好（ ）	アレルギー歴	なし（ ）	

### 【入院時情報】

検査値:Fe14μg/dL、ALB2.5g/dL、フェリチン定量 47.6ng/mL、葉酸 0.8ng/mL、AST31U/L、ALT20U/L、ALP476U/L、電解質正常、尿素窒素 12.1 mg/dL、Cr 0.66 mg/dL、血糖(空腹時)109 mg/dL、CRP/LA 10.84 mg/dL 両下肢閉塞性動脈硬化症に対して、入院日からアルプロスタジル注を2週間連日投与。3週目からベラプロストナトリウム錠の内服へ切り替えた。疼痛に対しアセトアミノフェン錠 200 mgを屯用で1回1錠服用していたが、現在は疼痛なく服用していない。創部は洗浄とスルファジアジン銀クリームを塗布。入院時のFe・葉酸値が低かった為、入院翌日からクエン酸第一鉄錠、入院10日後から葉酸錠を開始。

## 【key word】

薬学的な管理の実施、定期的な処方見直し

## 【処方見直し前の問題点】

- ①家族へ聴取したところ、薬が多く、食事があまり摂れないこともあり、減薬を希望される。
- ②薬を口に含んだまま、なかなか飲み込めない。トコフェロールニコチン酸エステルカプセルが容けたものが義歯にへばりつき、服用時の負担になっている。また、1回2カプセル服用中で錠数が多く、患者の負担になっている。
- ③リネゾリド錠は、錠剤が大きく、飲み込めない。
- ④鉄・葉酸の服用開始後の検査がなく漫然と服用している。過剰摂取による有害事象の発現の恐れがある。
- ⑤PPIを服用中であるが、明らかな既往歴の記録がなく、漫然と服用している可能性がある。

## 【処方提案の具体的な内容】

- ①減薬の提案：Ⅰ.肝機能は、AST/ALTともに正常値であり、処方意図が不明な為、ウルソデオキシコール酸錠の中止を提案。  
Ⅱ.排便コントロールは、1日1回と良好である為、整腸剤の減量または経過観察を提案。
- ②現在、閉塞性動脈硬化症の治療は、プロスタグランジン製剤の内服治療を行っており、トコフェロールニコチン酸エステルカプセルは処方目的が重複している為、併用の必要性を確認。また、剤数過多とカプセル剤の服用が困難であり服薬アドヒアランス低下に繋がる可能性がある為、ベラプロストナトリウム錠のみを継続とし、トコフェロールニコチン酸エステルカプセルの中止を提案。
- ③リネゾリド錠は、錠剤が大きく服用困難であること、水分摂取時に誤嚥等はない為、水に懸濁して服用することを提案。  
(簡易懸濁：適) 服薬介助する看護師、家族へ水に懸濁し服用可能である旨を情報提供し、簡易懸濁法を説明した。  
また、赤血球、Hb値、Ht値は投与前より基準値より低値であったため、リネゾリド投与による骨髄抑制の可能性もあったため検査値のモニタリングを行った。血小板の低下は認められたものの、投与前後による重大な変動は認められなかった。(RBC：319万/μL→327万/μL、Hb：8.1g/dL→8.4g/dL、Ht：25.7%→26.6%、血小板：33.1万/μL→28.4万/μL)
- ④鉄剤・葉酸の内服開始後、定期的なモニタリングが実施されていない為、Fe・葉酸の検査を依頼。
- ⑤PPIの処方目的を家族に聴取したところ、約3・4年前から食後のむかつきがあるため服用。家族より食前に服用可能か相談あり。

## 【多職種との関わり】

職種	主な連携内容
医師	代替薬の提案を含めた処方提案、処方設計や服薬方法、検査の依頼など。 服薬状況や家族の服薬に関する希望の情報提供。継続服薬の必要性の是非の確認
看護師	服薬方法（簡易懸濁法）の変更の説明。 変更、中止の処方意図の情報提供と薬学的支援内容の情報提供。
かかりつけ医	中止・変更薬剤の経緯について診療情報提供書内への情報提供および他院サマリーの発行。
保険薬局薬剤師	退院サマリーの発行。継続的に必要な薬学的支援内容の情報提供。お薬手帳への情報記載。
地域連携室	退院サマリーへの記載内容を情報提供し、他職種へ情報の共有を依頼。 退院サマリーの取り扱い方法の依頼

## 【減薬後の経過】

- ①排胆薬は、中止とし経過観察。→中止後、肝機能に変化なし。排便コントロールは良好ではあるが、便秘を起こしやすい鉄剤を服用中の為、整腸剤は経過観察とした。
  - ②閉塞性動脈硬化症の薬物治療のメインをベラプロストナトリウム錠とし、トコフェロールニコチン酸エステルカプセルは中止した。
  - ③リネゾリド錠は、簡易懸濁法を導入し服用が容易になった。創部の状態も良好となり、MRSAも消失し中止となった。
  - ④鉄剤は採血の結果、フェリチン定量は正常値であるも赤血球数・ALB値がやや低値のため経過観察としたが、中止検討を継続する。葉酸は、193.2ng/mLと高値のため中止。発熱等の症状はなく、有害事象出現を阻止できたと考える。
  - ⑤食前投与の可否について、医師としては原則は食後服用にしてほしいがどうしても無理な場合は可とするが、その際朝食後服用のクロピドグレル等による消化管リスクを回避する必要があるため、合わせてPPIの用法を朝食後へ変更することとなった。結果として服薬回数の減少には至らなかったが、家族の意向や本人のアドヒアランス状況を勘案した処方変更に至った。
- 変更後は症状悪化なく、食意改善もみられた。退院時、地域連携室等へ入院中の減薬の経緯と薬の管理方法、家族の薬に対する希望等について退院サマリー及びお薬手帳に情報記載。今回、患者と家族の悩みを医師と共有したことで3種類の減薬と簡易懸濁法の導入で確実な服用が可能になり、口腔内の清潔を保持、患者と介助者である家族の服薬時の負担軽減、今後の定期的な処方見直しに繋がったと考える。